

第18回山のトイレを考えるフォーラム開催にあたって

山のトイレを考える会 代表 岩村 和彦

平成29年度を迎え、会員の皆さまにおかれましてはいかがお過ごしでしょうか。平素より当会の活動に対しては強力なご支援、ご協力をいただいていますことに改めて衷心より感謝を申し上げます。

さて、昨年の当会の活動にも大きくかかわる出来事といえば、夏の豪雨による道内各地の被害です。特に日高山脈や大雪山周辺の林道の被害は甚大で、また十勝と札幌圏を結ぶ幹線国道の日勝峠はいまでもっての通行止めが続いています。これまで数多くの登山者が利用していた登山口までの道路の決壊により、登山対象とする山への交通手段も大幅に制限されているのが実態です。

そのために或る特定な山への利用が減少する、或はその一方で限られた利用可能が登山ルートに登山者が殺到するということが考えられ、これは登山道の悪化や山のトイレ問題にも少なからず影響するものです。その根底にはまだまだトイレについてのマナーが定着していない現実があります。

当会の昨年の活動内容については1月17日発行のニュースレターに載せてある通りです。道内の山岳団体などの協力のもと、美瑛富士避難小屋での携帯トイレブースの維持管理も2年目が過ぎました。6月から9月までトイレブースの設置、撤去を含めて12回の実施でしたが、毎回小屋周辺には使用済の紙やブツの放置が必ずと言っていいほど数か所見られます。携帯トイレ利用を徹底するにはまだまだ広報活動が欠かせません。

また美瑛富士避難小屋と並んで深刻な状況なのが、トムラウシ山南沼周辺の汚染です。日本百名山で岳人憧れのトムラウシ山のキャンプ指定地には関係機関もその対策を取り始めています。当会では関係機関からの要請もあり、可能な限り協力をする方向でいます。

ところで昨年はこれまでの当会の活動が社会貢献として認められました。北海道新聞エコ大賞、前田一步園賞をいただき、また山と溪谷社様からは美瑛富士が「日本山岳遺産」に認定を受けました。新聞にも取り上げられたことで、社会的にもトイレ問題の認知が進んでいることは有難い限りです。いずれも貴重な助成金をいただき、これを有効活用しながらさらなる山岳環境の改善につなげたいものです。

さて、今年のフォーラムのテーマは「お知恵拝借～携帯トイレ促進への道～」としました。北海道の山岳状況を冷静に見たとき、携帯トイレの利用をいかに図っていくかが、早期改善の手段であると確信しています。登山者のザックに雨具や食料と同じように携帯トイレがあり、それを使うのが当たり前、そんな時代が早く来るためにも多くのアイデアが求められています。

3月11日はトイレフォーラムを通して、皆様と多くの議論を重ねながら有効なお知恵を拝借できれば幸いです。またその後の交流会にも是非ご参加下さい。